

プロメテウス解剖学 コア アトラス

坂井建雄 監訳

市村浩一郎, 澤井 直 訳

＜書評者＞ 小林 靖 (防衛医科大学校・解剖学)

『プロメテウス解剖学アトラス』全 3 巻の日本語版がそろったのは昨年のことだったが、このたび、その 3 冊の中から厳選された図版を集めた『プロメテウス解剖学コアアトラス』の日本語版が刊行された。

『プロメテウス解剖学アトラス』は、第 1 巻が出版されたときからその図の質の高さが評判であった。従来のデジタル化された図は、その質感がややもすれば抽象的で滑らかすぎ、模式図としてはよくても実物と照合しにくいらいがあった。プロメテウスの図は自然かつ精緻なテクスチャで描かれており、初学者にも実物を想像しやすく学習に好適である。また、デジタル化されているが故にさまざまな器官系を自在に抽出して相互の位置関係を示すことが可能となり、専門家にも新しい視点を提供してくれるような図が多く掲載されていて、実務に十分役立てることができる。

今回刊行された「コアアトラス」は、『プロメテウス解剖学アトラス』全 3 巻の中から重要な図

を精選して 1 冊にまとめたものである。全体の構成は背部、胸部、腹部・骨盤、上肢、下肢、頭頸部、神経解剖となっており、局所解剖的な配列である。最近どの大学でも解剖学教育の時間数は減少傾向にあり、いきおい実習中心のカリキュラムとならざるを得ないが、その中で使用するのに適した構成といえる。他方、それぞれの章は骨格と筋から内部の器官へと、ある程度系統解剖を意識した順序となっていてバランスがとられている。

3 冊の解剖学アトラスの膨大な図版からどの図を選択するかは重要なポイントである。本書では初学者が正常の構造を理解するために必要な基本的な図がもれなく集められている。それに加えて、病的な状態の解説や臨床上の手技の図解も随所にあつて（たとえば椎間板ヘルニアの説明や胸腔チューブの挿入の図解など）、臨床医学の学習とのスムーズな関係が図られている。中でもリンパ流路の図解は各部に掲載されていて、非常に有意義である。

多くの図を掲載しようとしたためか、あるいは判型が幾分小さくなったためか、1 つひとつの図が小さくなったようである。以前のほうが見やすかったようにも思うのだが、これは老眼の始まった評者のほうに原因があるのであって、若い読者にとってはまったく問題にならないのかもしれない。

本書はこのように『プロメテウス解剖学アトラス』の長所を生かしつつ、よりコンパクトで学習に適した形に再編された図譜である。3 巻に分かれていた解剖学アトラスは、おのおのの専門領域で活躍しておられる読者諸氏には、自分に必要な分野だけ買い求めることもできて好都合である。しかし、3 巻とも揃えとなると価格の面で負担が大きいの事実で、とりわけ全体を学習しなければならない学生に推薦しづらい面があった。本書は 1 冊にすべてがまとまっていながら 1 万円を切る価格であり、この点でも医学生諸君にとりわけお勧めしたいアトラスである。

●A4 変型 頁 704 2010 年
定価 9,975 円
(本体 9,500 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-00746-7]
医学書院 刊